

2023年12月期 第1四半期 決算補足説明資料

株式会社アシックス
2023年5月10日



目次

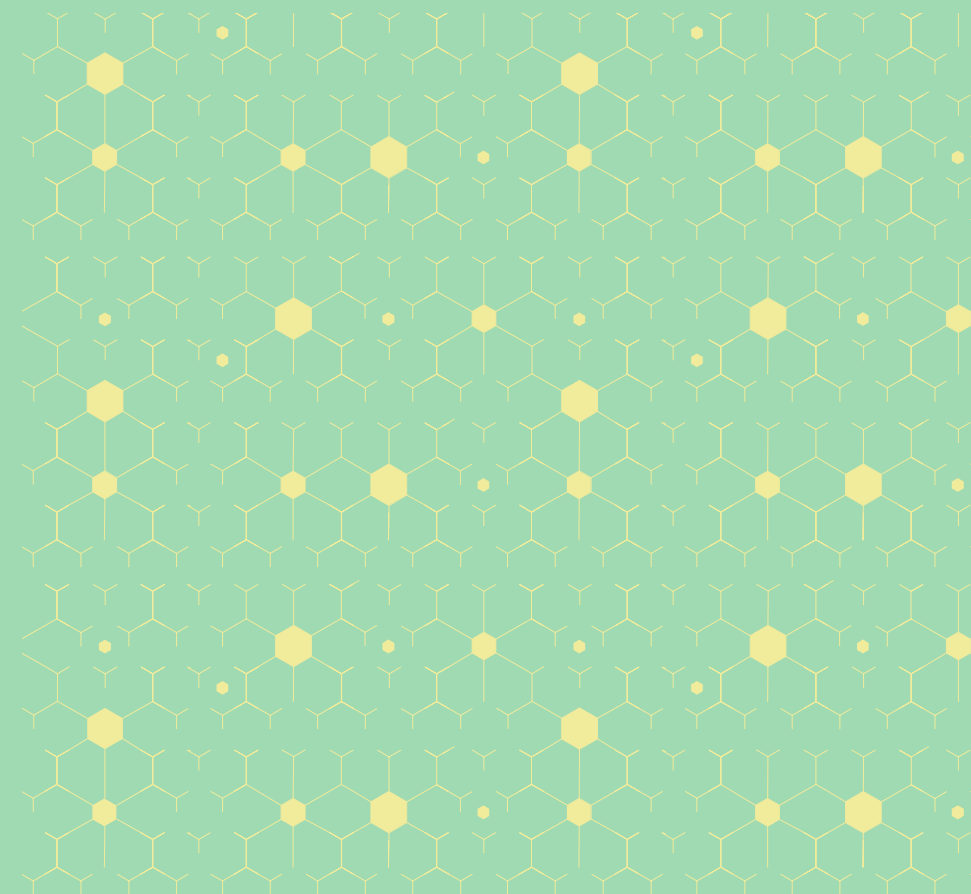
1

1. 連結業績
2. 連結経営成績（カテゴリー別）
3. 連結経営成績（地域別）
4. 連結財政状態
5. 連結業績予想
6. その他

DISCLAIMER

将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しの上に全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。



2023年12月期 第1四半期 連結決算ポイント

2

- ✓ スポーツイベントの開催が本格的に再開したこともあり、売上高（前年同期：1,053億円→当第1四半期累計期間：1,522億円）は第1四半期累計期間では変則決算期を除き過去最高。前年同期比で+44.6%、為替影響を除いても+35.0%の成長。
- ✓ 粗利益率は、仕入為替の悪化があったものの、販売価格の適正化等が奏功し、前年同期から0.3ppt改善した50.2%。これもあり、営業利益は第1四半期累計期間では過去最高の221億円、前年同期から2倍超の増益。営業利益率は前年同期の9.5%から14.5%へ。
- ✓ パフォーマンスランニングの売上高は、全ての地域で増収。前年同期に当カテゴリーの商品供給を優先していたため、成長率は前年同期比+32.6%。
- ✓ 前年同期に生産影響のあったコアパフォーマンススポーツ及びスポーツスタイルの売上高は、それぞれ前年同期の2倍超、前年同期比+90.8%。
- ✓ オニツカタイガーの売上高は、インバウンド売上が回復傾向にある日本、成長著しい東南・南アジアでの増収もあり前年同期比+38.8%。
- ✓ 地域別では、インバウンド売上の戻りがあるアシックスジャパンで+61.9%、リオープンによる回復が見られる中華圏で+41.2%、今後の成長ドライバーであるインドをはじめとする東南・南アジアで+91.1%と大きく伸長。
- ✓ OneASICS会員数（前年同期比+34.5%）の継続的な増加もありEC売上高は222億円と前年同期比で+45.1%。当第1四半期累計期間から新たに開示をスタートしたランニングサービスチャネルの売上高は、レース登録会社の買収効果もあり、前年同期の3億円から27億円と大幅増収。



2023年開催の主要なアシックス協賛マラソン大会での選手の活躍

3

- ✓ リアルレースが本格的に再開.
- ✓ Cプロジェクト契約選手を中心に多くの選手がMETASPEEDなどのスピードモデルを着用して活躍.
- ✓ 東京マラソンでのシューズシェアは前年比+4%となる34.7%と着実に増加.

	東京マラソン	LAマラソン	パリマラソン
開催日	3月5日	3月19日	4月3日
参加者数	約38,000人	約38,000人	約52,000人
シェア ※	34.7%	16.7%	18.6%
活躍選手	Tsegaye Getachew選手 Ethiopia ：男子3位 Cameron Levins選手 Canada ：男子5位 Betsy Saina選手 USA ：女子5位	Jemal Yimer選手 Ethiopia ：男子1位 Barnaba Kipkoech選手 Kenya ：男子3位	Gizealew Ayana選手 Ethiopia ：男子1位 Elkana Langat選手 Kenya ：男子4位 Yasehi Kalayu選手 Ethiopia ：女子4位 Windfridah Moseti選手 Kenya ：女子5位

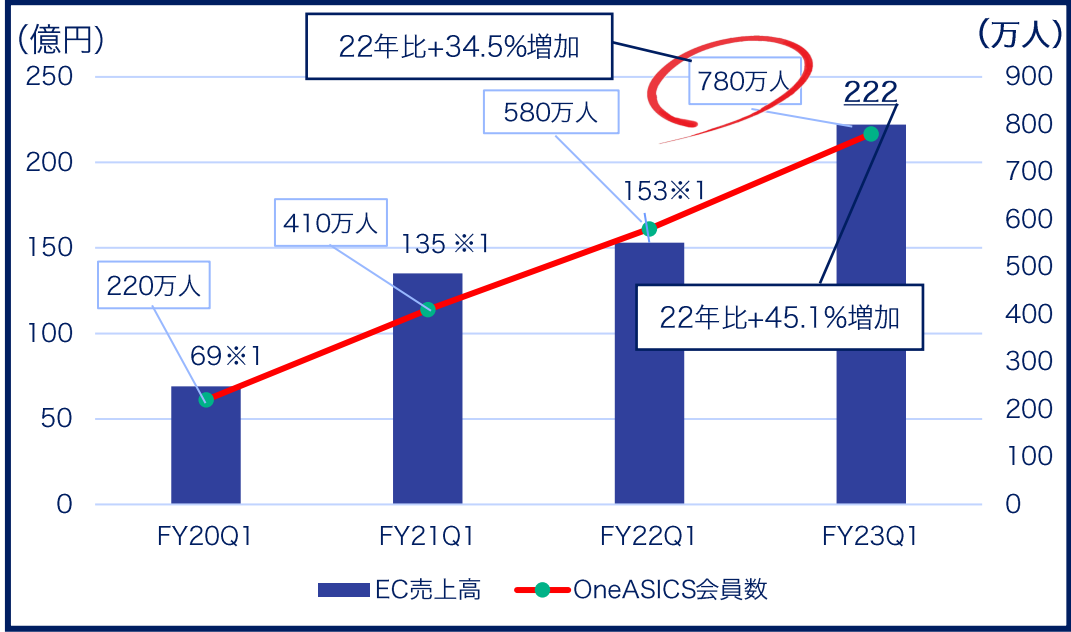
※ シェアは自社調べ.



OneASICS会員数・EC売上高について

- ✓ グローバル及び地域別で見ても、OneASICS会員数の増加とともにEC売上高も着実に成長。
- ✓ 引き続き各地域においてOneASICS会員獲得を推進し、ランニングエコシステムへのランナーの取込みを強化。

■OneASICS会員数と連結EC売上高



■OneASICS会員数と地域別EC売上高

地域		FY20Q1	FY21Q1	FY22Q1	FY23Q1	増減
日本	会員数 (万人)	36	60	100	140	40.0%
	EC売上高 (億円)	8	13	12	16	25.9%
北米	会員数	72	133	204	295	44.6%
	EC売上高	19	40	51	84	66.6%
欧州	会員数	91	174	224	274	22.3%
	EC売上高	16	36	32	46	43.8%
オセアニア	会員数	9	18	26	40	53.8%
	EC売上高	3	6	6	9	41.5%

中華圏 ※2 (ご参考)	EC売上高	19	32	35	46	28.4%
--------------	-------	----	----	----	----	-------

※1 過年度のEC売上高は比較可能性を考えランニングサービスチャネル売上高を控除しております。
※2 他社のプラットフォームを使用。



日本におけるランニングエコシステム拡充の事例

5

- ✓ アシックスとアールビーズが日本国内のランニング大会での連携を強化。
- ✓ 保険代理店業務を行うアシックス・プレイシュア※が、アールビーズ主催大会へ保険提供。10万人規模のランナーやスタッフが安心して大会に参加できるための保険の提供を開始。

■アシックスとアールビーズとの連携強化



- ✓ アールビーズのトレーニングアプリTATTA内に、Challenge 4及び千歳JAL国際マラソンにおけるランニングプログラム参加者用バーチャルコミュニティを開設。
- ✓ 週次バーチャルレース開催とトレーニングのアドバイス配信により、大会での目標達成をサポート。バーチャルレース完走回数に応じてOneASICSポイントを進呈。
- ✓ 今後アシックスによる協賛大会を増やし、レースレポートやランニングプログラムなどの提供を通してランナーとの繋がりを更に強化。

■保険事業



- ✓ ULTRA-TRAIL Mt. FUJI2023、高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン2023で、約14,000人のランナー・スタッフの怪我に加え特定の疾病も補償。
- ✓ 保険事業の更なる拡大を通じ、安心、安全なランニング体験を提供。



※ アシックス・プレイシュア株式会社
(本社：東京都江東区)
ランナー向け保険の開発、提供など保険代理店業務を行う株式会社アシックスの100%子会社。
2021年11月設立。

提携保険会社



Rakuten 楽天損保

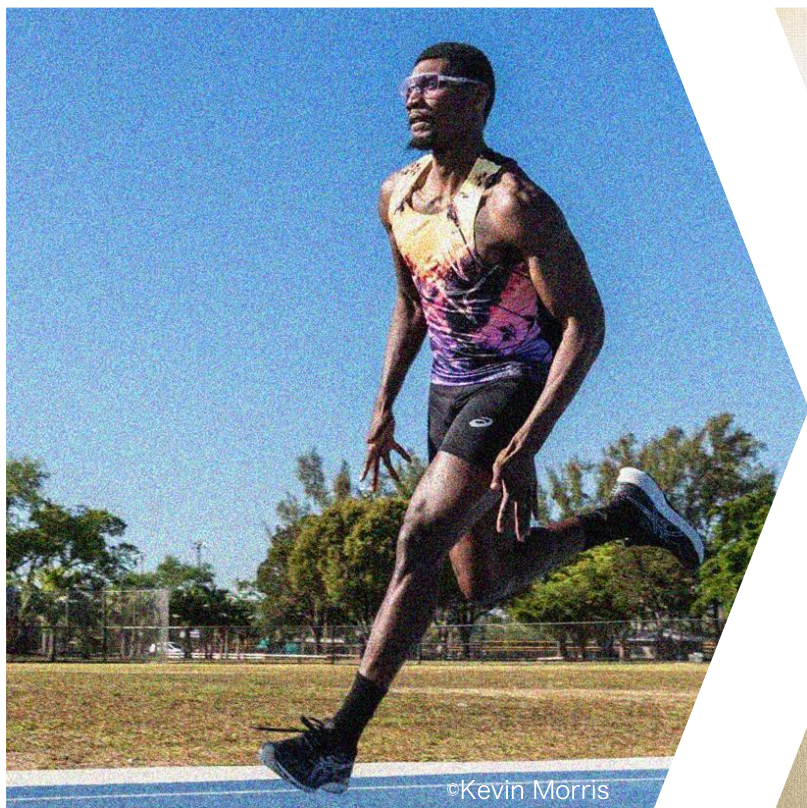
MS&AD あいおいニッセイ同和損保



フレッド・カーリー (Fred Kerley)選手とアドバイザリースタッフ契約

6

- ✓ オレゴン2022世界陸上競技大会男子100mの金メダリスト.
- ✓ 世界で唯一となる100m9秒80、200m19秒80、400m43秒80を切る記録をあわせもつスプリンターがアシックスファミリーに加入.
- ✓ ブタペスト（ハンガリー）で8月に開催予定の世界陸上をサポート. その他トップアスリートによるCプロジェクトシューズやスパイクの着用、そして陸上日本代表やオランダ代表とのパートナーシップを通じたブランドポジションの向上を図る.



フレッド・カーリー選手のプロフィール

生年月日：1995年5月7日生まれ

出身：米国テキサス州 サン・アントニオ

自己ベスト：

(1) 100m 9秒76

(2) 200m 19秒76

(3) 400m 43秒64



※ 「6. その他」に主要契約アスリート等の一覧を紹介.

北米地域の収益性改善に向けた2023年の取組み

7

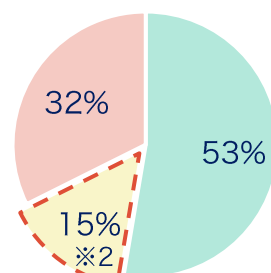
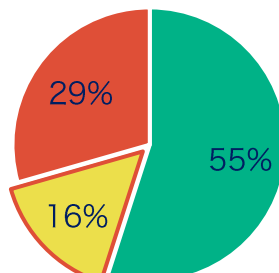
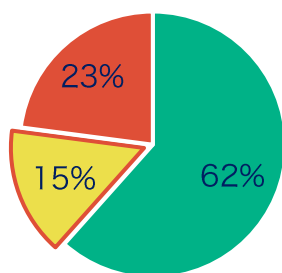
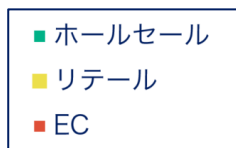
- ✓ 第1四半期累計期間における北米地域の粗利益率は42.4%、前年同期比+5.5pptの改善。下記により更なる改善へ。
- ✓ チャンネル戦略では、設備等の老朽化がみられる直営店を中心に店舗戦略を見直す。
- ✓ プロダクト戦略では、パフォーマンスランニング(P.RUN)におけるエントリーモデル※1の構成比を継続的に低下させる等により、粗利益率の向上を引き続き図る。

■北米地域

単位：億円	2021年実績	2022年実績	2023年計画	
			第1四半期実績	
売上高	861	1,053	261	1,080
粗利益率	40.0%	40.2%	42.4%	44%へ
営業利益	8	0	△3	20

北米全体で黒字化見込みも
リテールの収益性改善が必要

チャンネル別売上高構成



直営店数(年度末)	102店舗	95店舗	91店舗 ▲追加見直し
P.RUNエントリーモデル ※1 構成比	33.7%	35.7%	30%へ

■2023年のアクション

チャンネル戦略

- ✓ 不採算店舗の見直しを進め、将来の固定費を削減
- ✓ 注力しているEC及びランニング専門店を更に強化

プロダクト戦略

- ✓ P.RUNにおける高価格帯商品へのシフト
- ✓ アパレルは、ランニング・トレーニングへ集中

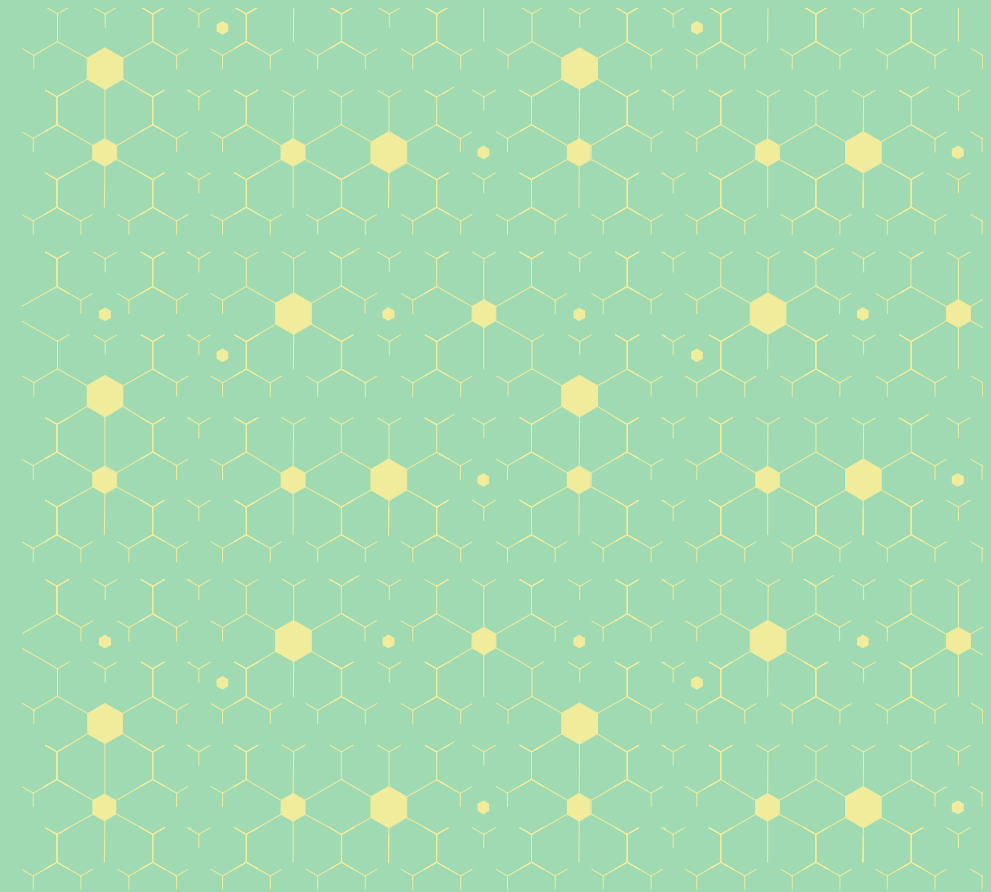
※1 主に\$80以下の商品群。

※2 91店舗でのチャンネル別売上高構成。

1. 2023年12月期 第1四半期連結業績

8

- ✓ 2023年12月期 第1四半期概要
- ✓ 連結決算ハイライト
- ✓ 販管費の状況



2023年12月期 第1四半期 概要

9

売上高

前年同期比：+469億円 +44.6%（為替影響除く増減 +369億円 +35.0%）

- ◆ スポーツイベントの開催が本格的に再開したこともあり、売上高（前年同期：1,053億円→当第1四半期累計期間：1,522億円）は第1四半期累計期間では変則決算期を除き過去最高。
- ✓ 前年同期比で+44.6%、為替影響を除いても+35.0%の成長。
- ✓ インバウンド売上の戻りがあるアシックスジャパンで+61.9%、リオープンによる回復が見られる中華圏で+41.2%、今後の成長ドライバーであるインドをはじめとする東南・南アジアで+91.1%と大きく伸長。

営業利益

前年同期比：+121億円 +119.9%（為替影響除く増減 +109億円 +109.1%）

- ◆ 営業利益は第1四半期累計期間では過去最高の221億円、前年同期から2倍超の増益。
- ✓ 粗利益率は、仕入為替の悪化があったものの、販売価格の適正化等が奏功し、前年同期から0.3ppt改善した50.2%。
- ✓ 営業利益率は前年同期の9.5%から14.5%へ。

四半期純利益

前年同期比：+76億円 +86.9%（為替影響除く増減 +69億円 +79.3%）

- ◆ 四半期純利益（163億円）は、前年同期比80%超の増益。



連結決算ハイライト

(単位：億円)

第1四半期 (1-3月)	FY22Q1 実績	FY23Q1 実績	前年同期比 上段：増減額 下段：増減率
売上高	1,053	1,522	+469 +44.6%
売上総利益	526	764	+238 +45.3%
売上総利益率	49.9%	50.2%	+0.3ppt
販管費	426	543	+117 +27.6%
販管費率	40.4%	35.7%	△4.7ppt
人件費	151	175	+24 +15.6%
広告宣伝費	55	87	+32 +57.1%
広告宣伝費率	5.3%	5.8%	+0.5ppt
賃借料	28	30	+2 +4.4%
減価償却費	35	41	+6 +15.2%
その他経費	157	210	+53 +33.8%
営業利益	100	221	+121 +119.9%
営業利益率	9.5%	14.5%	+5.0ppt
経常利益	110	219	+109 +99.3%
特別損益	△0	△3	△3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	87	163	+76 +86.9%

	FY22Q1 実績	FY23Q1 実績	増減額	増減率
海外売上高	864	1,221	+357	+41.4%
海外比率	82.0%	80.2%	-	△1.8ppt
為替影響除く	連結売上高増減		+369	+35.0%
	連結営業利益増減		+109	+109.1%
	連結純利益増減		+69	+79.3%

<参考：平均為替レート(円)>

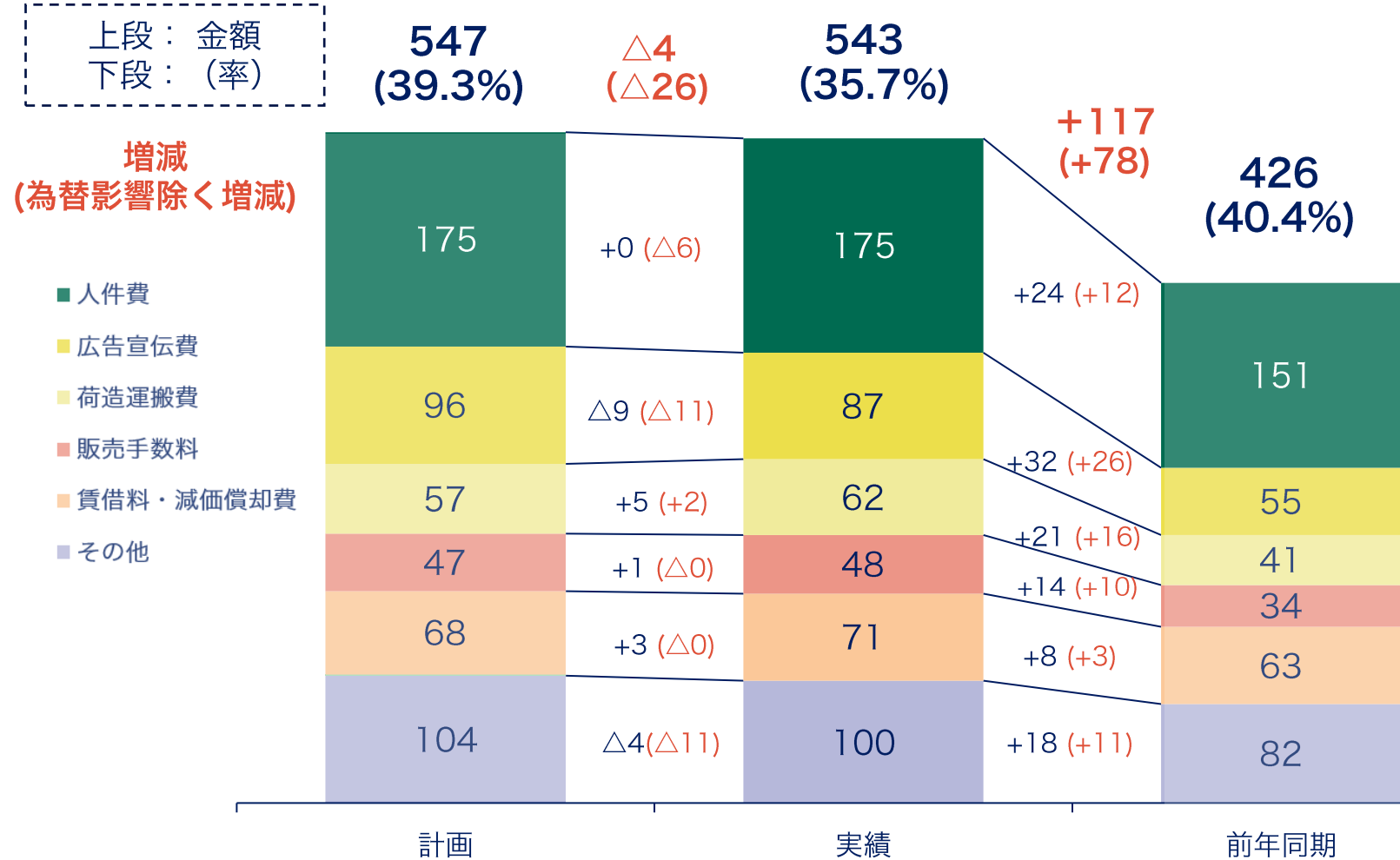
第1四半期 (1-3月)	FY22Q1 実績	FY23Q1 実績
1ドル	117.01	132.77
1ユーロ	131.42	142.89
1人民元	18.43	19.34



販管費の状況（第1四半期累計）

- ✓ 計画比は、為替による押上げが22億円あったものの4億円減少。 広告宣伝費の発生時期変更等が要因。
- ✓ 前年同期比は、為替による押上げ39億円もあり117億円増加。 主な増加要因は前年に商品販売時期の変更をした 広告宣伝費、ECの売上高増加に連動した販売手数料や荷造運搬費。
- ✓ 販管費率は35.7%。 大幅増収により計画・前年同期から改善。

(単位：億円)



<参考：平均為替レート(円)>

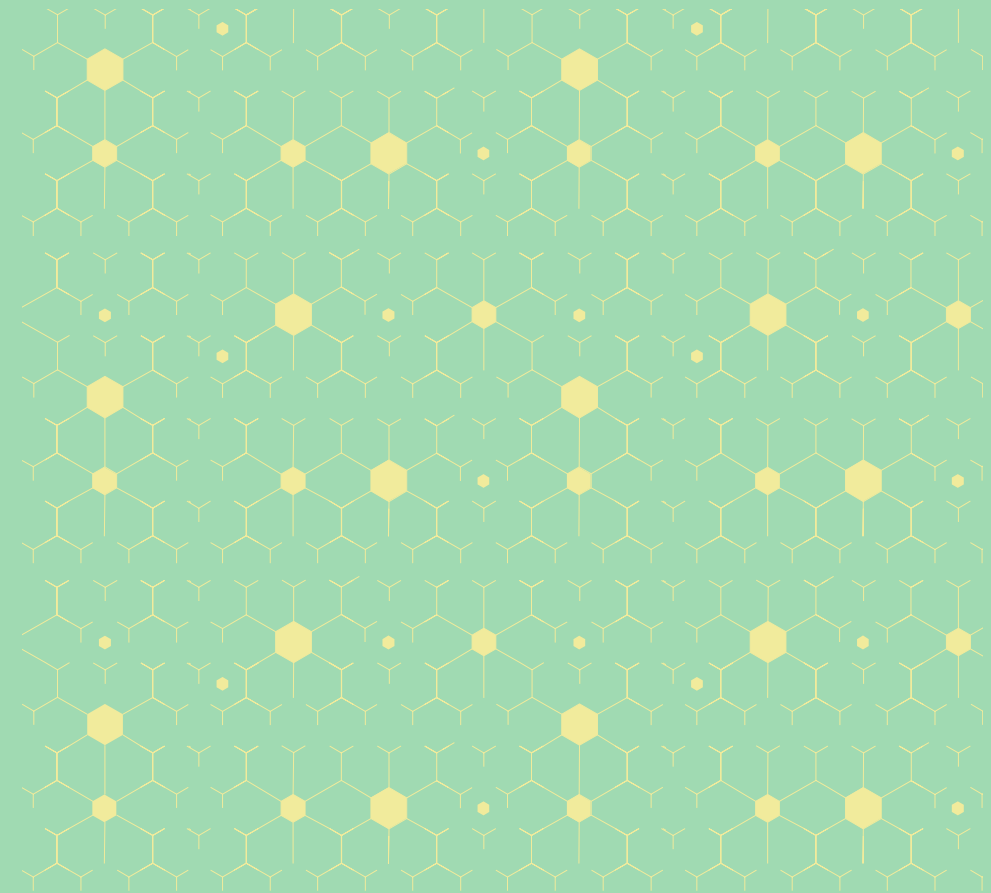
第1四半期 (1-3月)	FY23Q1 計画	FY23Q1 実績	FY22Q1 実績
1ドル	125.00	132.77	117.01
1ユーロ	132.00	142.89	131.42
1人民元	19.00	19.34	18.43



2. 2023年12月期 第1四半期 連結経営成績（カテゴリー別）

12

- ✓ カテゴリー別連結売上高
- ✓ カテゴリー別業績

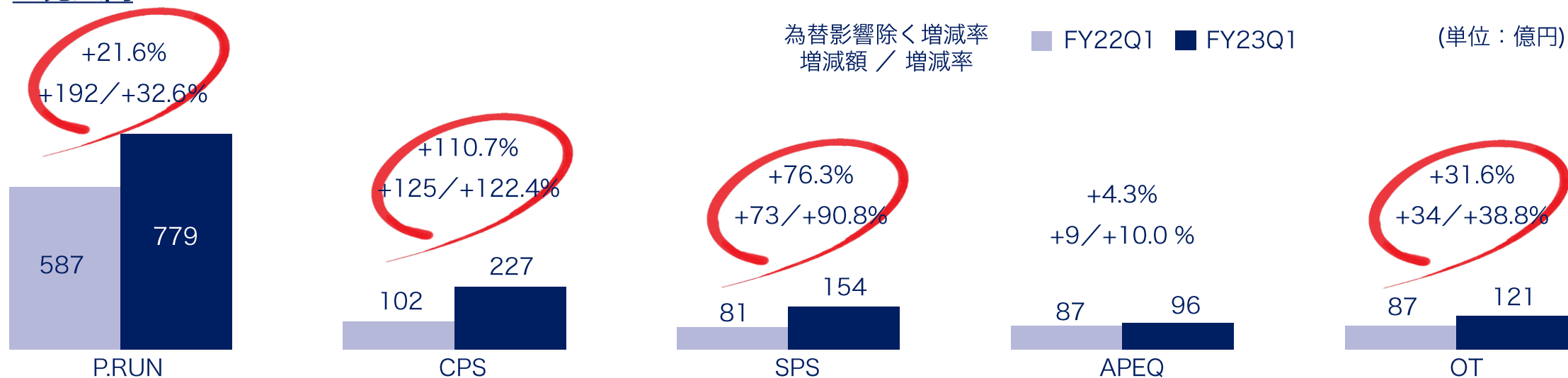


カテゴリー別連結売上高

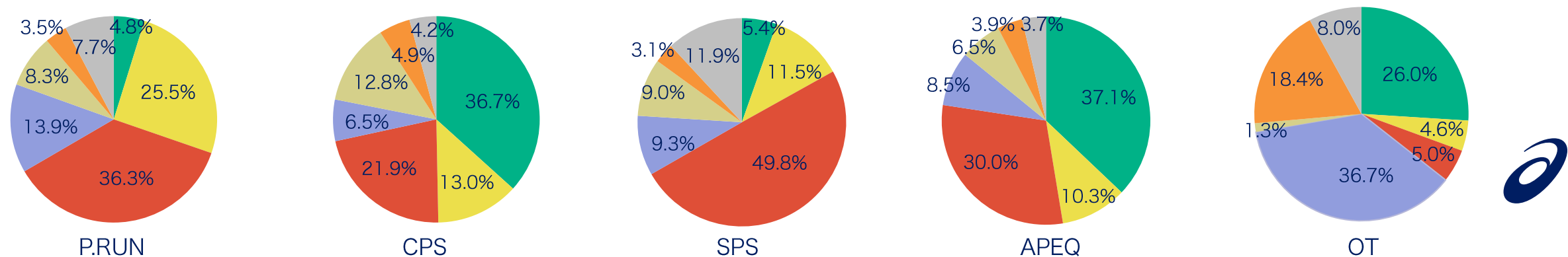
13

- ✓ 全カテゴリーで増収、特にP.RUN、CPS、SPSは2019年対比でも +70~+80%の大幅増収。
- ✓ CPSはワーキングが好調な日本とテニスが好調な欧州、SPSはホールセールが順調な欧州、OTはインバウンド売上回復の日本と引き続き好調な東南・南アジアが牽引。

■売上高



■カテゴリー別地域別売上高構成



カテゴリー利益等一覧

14

- ✓ 全カテゴリーで増収増益.
- ✓ カテゴリー外コストは、為替影響や人件費の増加等により前年同期比プラスとなるもコストオーナー制の下、売上高成長率の範囲内で着地.

(単位：億円)

	P.RUN	CPS	SPS	APEQ	OT	Others	TTL
売上高	779 (+192)	227 (+125)	154 (+73)	96 (+9)	121 (+34)	145 (+36)	1,522 (+469)
カテゴリー利益	169 (+37)	57 (+42)	37 (+24)	6 (+5)	30 (+12)		
カテゴリー外コスト							95 (+16)
連結営業利益							221 (+121)

()内は前年同期比



パフォーマンスランニング (P.RUN)



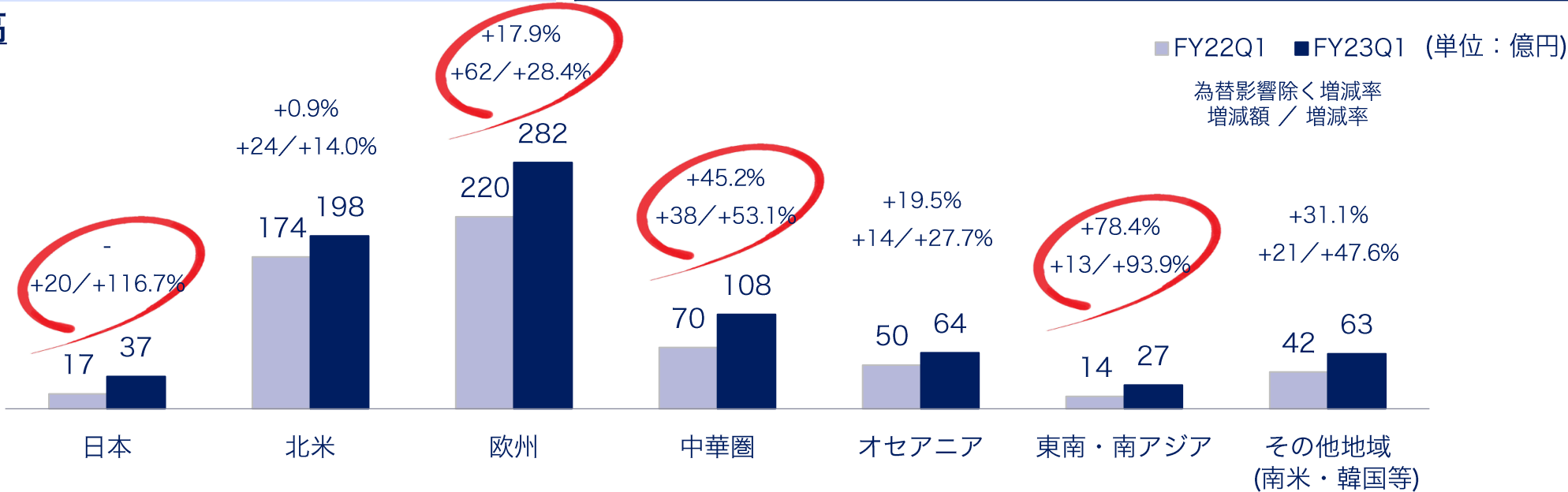
GEL-NIMBUS 25
シリーズ史上最高のクッション性

第1四半期 (1-3月)	FY22Q1	FY23Q1	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	587	779	+192	+32.6%
為替影響除く増減		713	+126	+21.6%
カテゴリー利益	132	169	+37	+27.3%
カテゴリー利益率	22.6%	21.7%	-	△0.9ppt

ポイント

- ◆ 全ての地域で2桁増収となり、計画も超過。
欧州+28.4%、中華圏+53.1%の伸長。
また、日本、東南・南アジアにおいては約2倍の高成長。
- ◆ 高粗利益率商品への注力や販売価格の適正化に加え、物流費等のコスト正常化もあり、粗利益率は47.8%(前年同期比+0.8ppt)と改善。
- ◆ カテゴリー利益は増収及び粗利益率改善に伴い増益、計画も超過。
- ◆ 販売好調のGEL-NIMBUS 25に続き、発売以来30周年となるGEL-KAYANO 30を発売。

■地域別売上高



コアパフォーマンススポーツ (CPS)



COURT FF 3 NOVAK
ノバク・ジョコビッチ選手全仏着用モデル

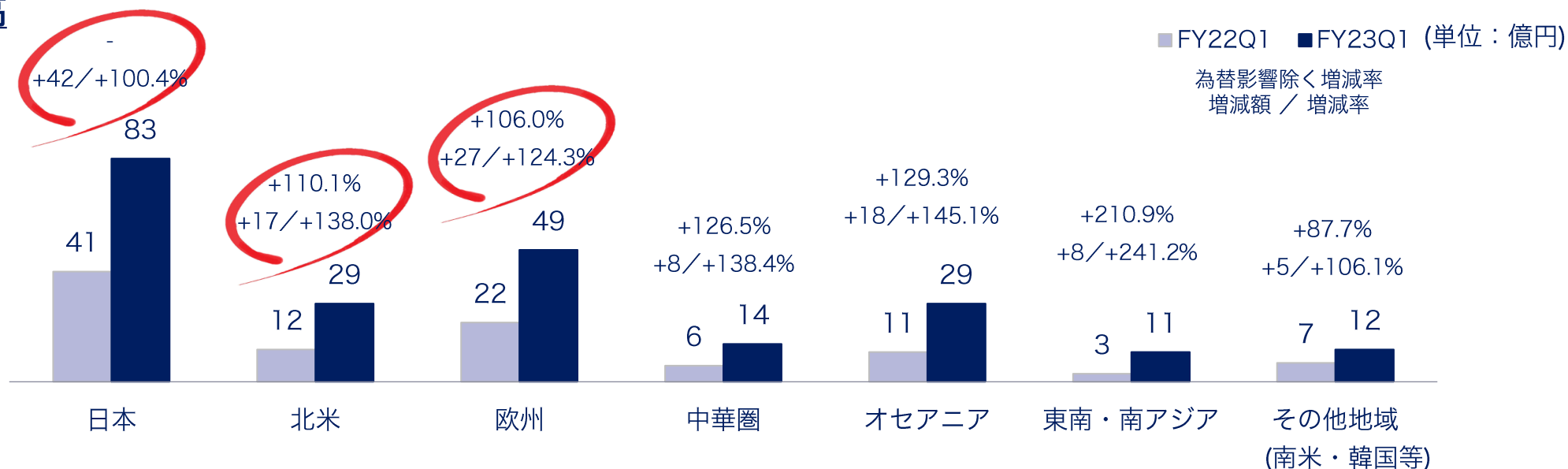
16

第1四半期 (1-3月)	FY22Q1	FY23Q1	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	102	227	+125	+122.4%
為替影響除く増減		215	+113	+110.7%
カテゴリー利益	15	57	+42	+275.1%
カテゴリー利益率	15.1%	25.4%	-	+10.3ppt

ポイント

- ◆ 売上高は、全ての地域で前年同期比2桁増収となり、計画も超過。特に主要地域においては前年同期比2倍超の増収。また日本地域ではワーキングシューズも前年同期比、計画比共に好調に推移。
- ◆ 粗利益率は、計画を上回ったものの仕入為替の悪化やチャネルミックスの影響等により前年を下回り43.7%(前年同期比△1.9ppt)。
- ◆ カテゴリー利益は、全ての地域で前年同期比、計画比共に増益。
- ◆ 欧州主要国でシェアNo1のテニスは、主要大会を通してグローバルでマーケティング活動等に注力し、さらなるシェア拡大を狙う。
- ◆ フレッド・カーリー選手ら契約選手を活用した商品訴求を継続実施。

■地域別売上高



スポーツスタイル (SPS)



GEL-NYC

ランニングシューズからインスピレーションを得た
モダンなストリートスタイル

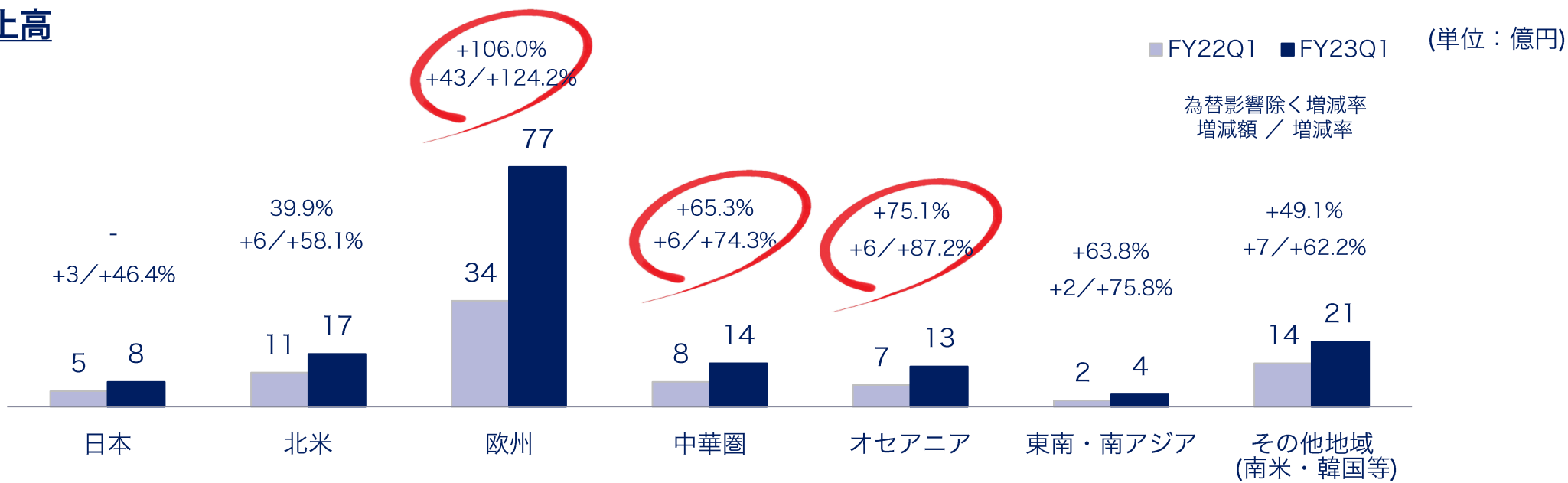
17

第1四半期 (1-3月)	FY22Q1	FY23Q1	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	81	154	+73	+90.8%
為替影響除く増減		142	+61	+76.3%
カテゴリ利益	13	37	+24	+179.6%
カテゴリ利益率	16.6%	24.3%	-	+7.7ppt

ポイント

- ◆ 売上高は、前年同期比で大幅増収、計画比も超過。特に欧州+124.2%やオセアニア+87.2%、中華圏+74.3%が高成長。
- ◆ 粗利益率は47.3%。仕入為替の悪化に加えてホールセール売上の構成比が高まったことにより前年同期比△1.8%。
- ◆ カテゴリー利益は、全ての地域で増益となり、計画比も超過。
- ◆ 6月開催のパリファッションウィークの際にポップアップイベントを実施予定。
- ◆ 韓国では、アシックススポーツスタイルがファッションアイテムとして若者に好評価。また、デザイナーのマーティン・キムとのコラボレーションを皮切りに更なるメディア露出を図る。

■地域別売上高



アパレル・エキップメント (APEQ)



NAGINO Collection
ACTIBREEZE機能搭載商品

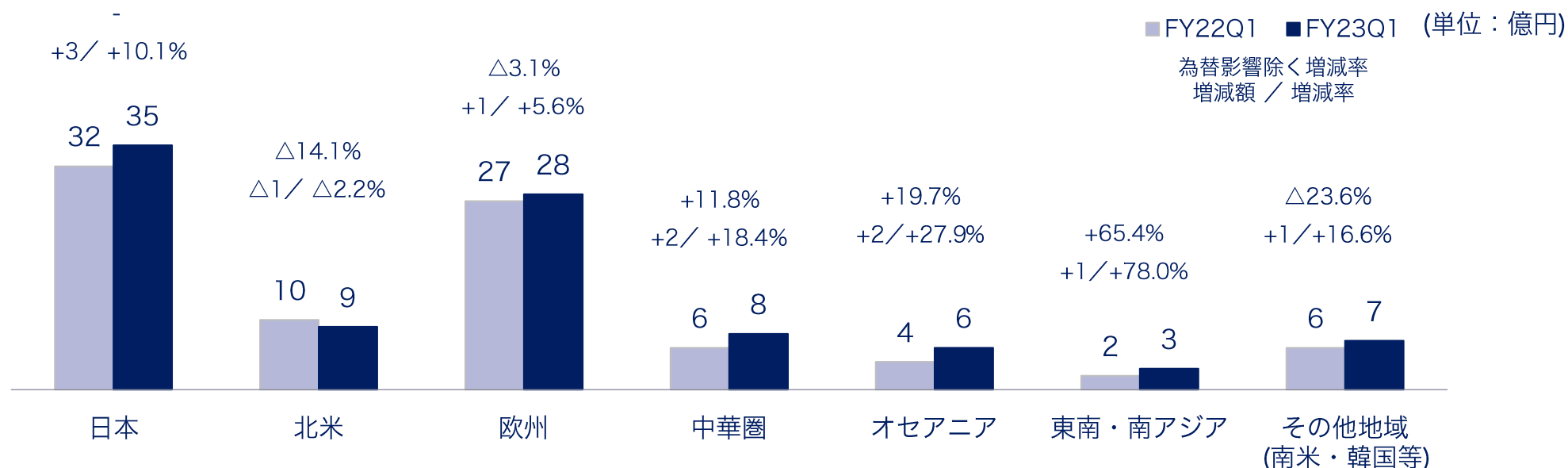
18

第1四半期 (1-3月)	FY22Q1	FY23Q1	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	87	96	+9	+10.0%
為替影響除く増減		90	+3	+4.3%
カテゴリー利益	1	6	+5	+243.1%
カテゴリー利益率	2.0%	6.3%	-	+4.3ppt

ポイント

- ◆ 売上高は全体で増収、ほぼ計画通りの推移.
- ◆ 粗利益率は46.1%（前年同期比+2.5ppt）に改善.
- ◆ カテゴリー利益は、増収、粗利益率改善に伴い増益.
- ◆ ACTIBREEZEの23年新商品については、機能性の追求に特化した施策を実施し、更なる認知度向上と販売の強化を図る.

■地域別売上高



オニツカタイガー (OT)



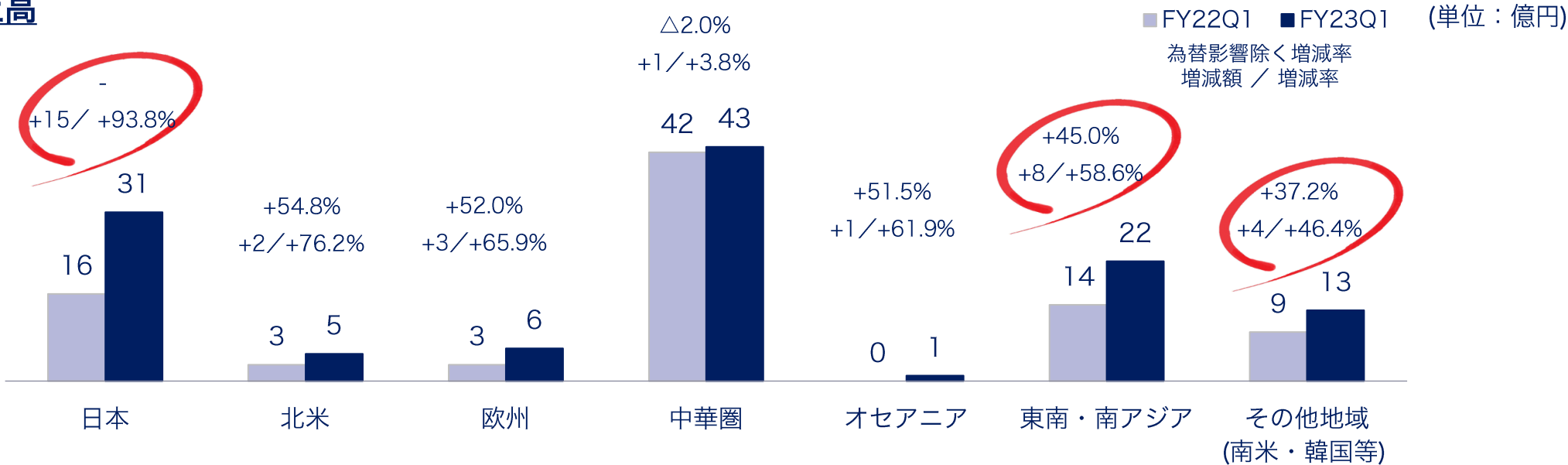
MEXICO 66 GDX
上質な日本製レザーをアッパー全面に採用

第1四半期 (1-3月)	FY22Q1	FY23Q1	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	87	121	+34	+38.8%
為替影響除く増減		114	+27	+31.6%
カテゴリー利益	18	30	+12	+63.3%
カテゴリー利益率	21.2%	25.0%	-	+3.8ppt

ポイント

- ◆ 売上高は、インバウンド売上の急回復が見られる日本に加え、東南・南アジア、韓国で好調に推移。
- ◆ カテゴリー利益は、増収に加え、リテールシェア拡大と継続的な販売価格コントロールに伴う粗利益率の向上（67.9%、前年同期比+1.9ppt）により増益。
- ◆ イベント等を通じたブランド認知向上に努めると共に、日本では高価格帯の販売に注力。また、中国等では新規出店（5店舗を予定）による売上拡大を目指す。

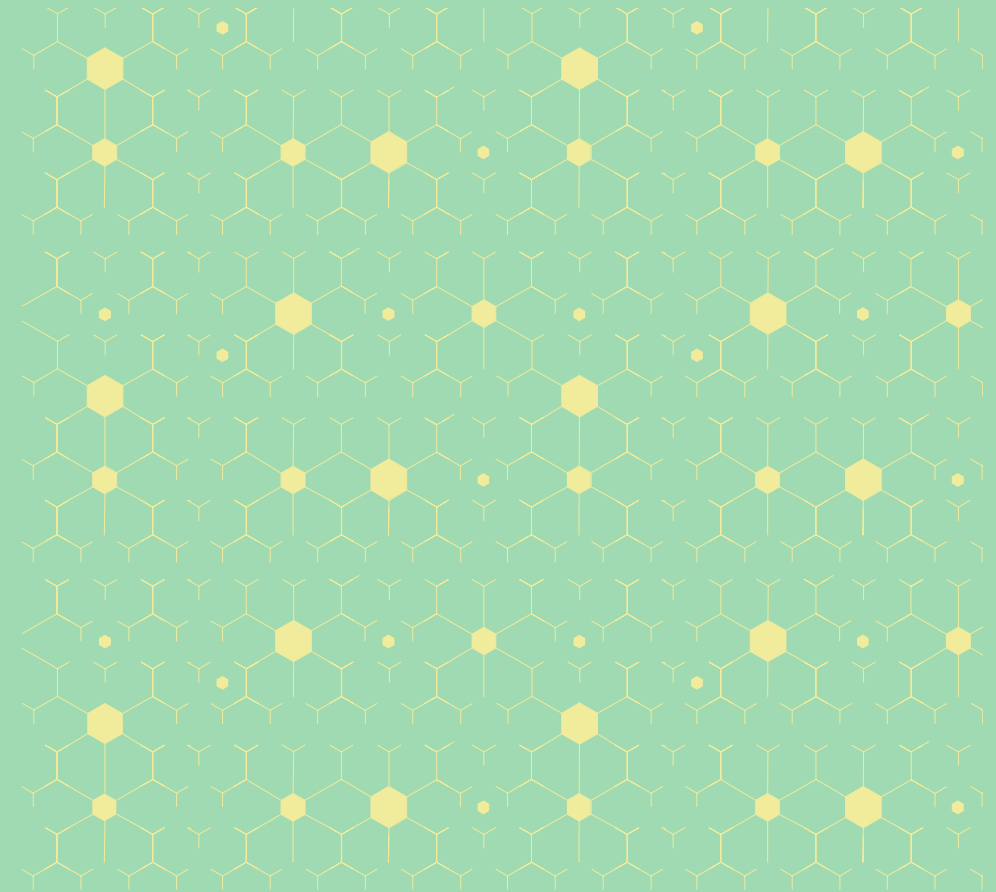
■地域別売上高



3. 2023年12月期 第1四半期 連結経営成績（地域別）

20

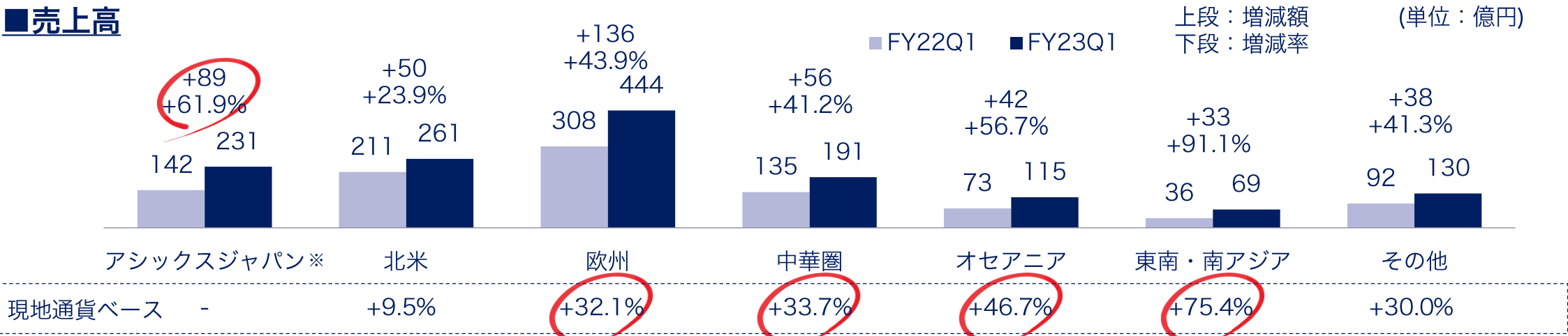
- ✓ 地域別連結売上高及びカテゴリー構成
- ✓ 連結営業利益内訳（地域別）
- ✓ チャンネル別売上高
- ✓ 月別・四半期別売上高



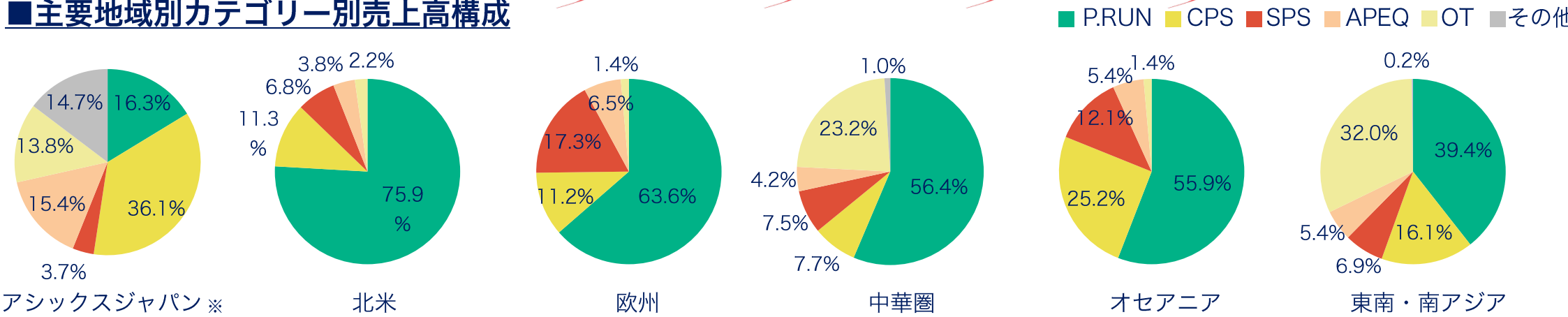
地域別連結売上高及びカテゴリー構成

- ✓ 前年同期は生産影響による商品不足があったため、全地域で増収。
- ✓ アシックスジャパンでは、P.RUN、CPSの売上高が前年同期比約2倍になったことに加え、インバウンド売上が回復傾向にあり、60%超の大幅増収。
- ✓ 今後の成長ドライバーである東南・南アジアが75%と大きく伸長。

■売上高



■主要地域別カテゴリー別売上高構成



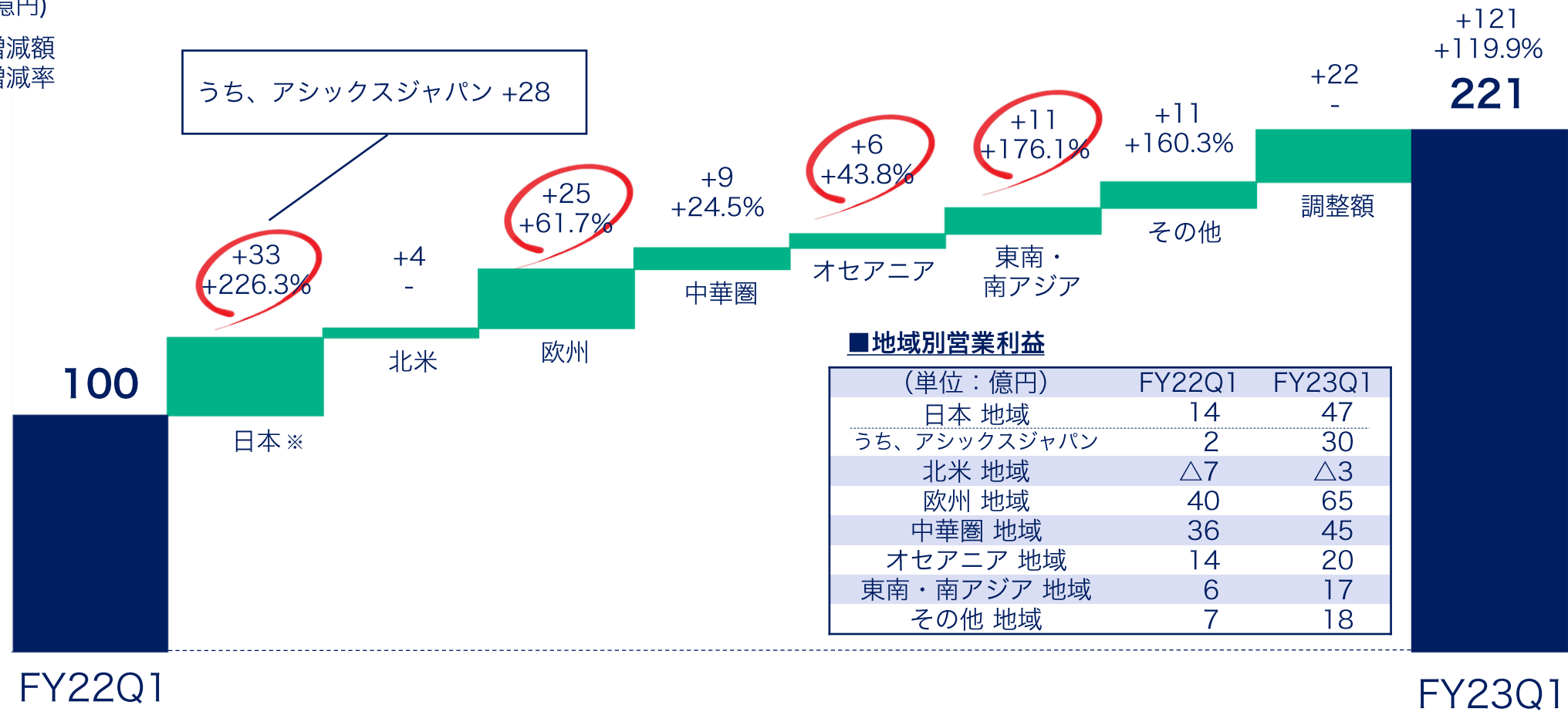
※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社の売上も含まれております。よって、この決算補足説明資料においては、他の地域との比較可能性を考え、2022年12月期 第1四半期よりアシックスジャパンとしております。なお、日本地域における売上は、前期 269億円、当期 363億円であり、詳細につきましては決算短信に記載しております。



連結営業利益内訳（地域別）

- ✓ 日本地域に含まれるアシックスジャパンでは、大幅増収となったことにより、2億円から30億円へ増益。
- ✓ 成長市場として位置付ける東南・南アジアは順調な成長により増益。6月のインベストメントデイにて「インド・アジアにおける成長戦略」を発表予定。

(単位：億円)
上段：増減額
下段：増減率



※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。
なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツ等の会社を含みます。



チャネル別売上高

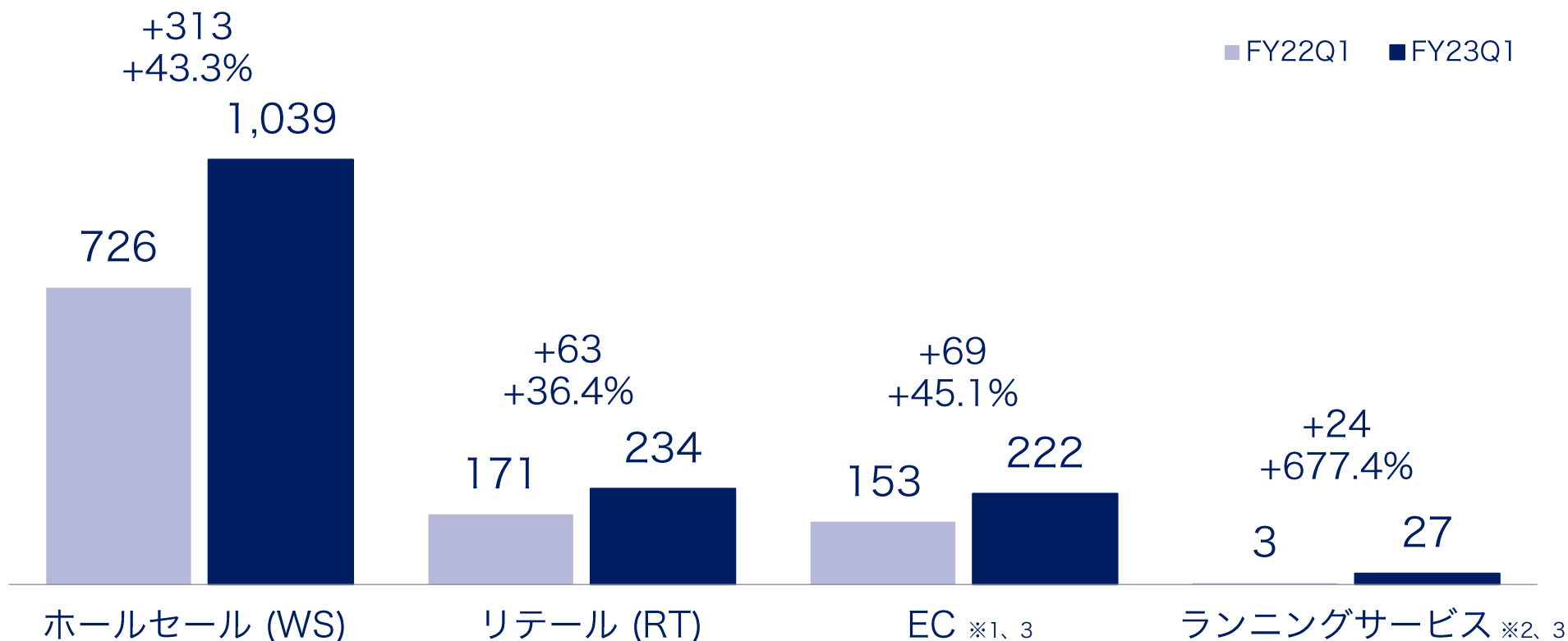
23

- ✓ ホールセールは前年同期比+43.3%。また、注力している米国ランニング専門店は+74.2%と大きく伸長。
- ✓ ECは前年同期比+45.1%となり、北米や欧州で大幅に伸長。
- ✓ 当期よりレースロースターやアールビーズが担うレース登録や運営等の事業をランニングサービスとして開示。ランニングエコシステムの拡充に繋がる同サービスを強化することで更なる収益性向上を図る。

(単位：億円)

上段：増減額

下段：増減率



チャネル別
売上高構成

68.8%	▶	68.2%	16.3%	▶	15.4%	14.6%	▶	14.6%	0.3%	▶	1.8%
-------	---	-------	-------	---	-------	-------	---	-------	------	---	------

※1 自社ECサイトとマーケットプレイスはECに含み、ホールセールEリテラーはホールセールに含んでおります。

※2 レース登録や運営等のサービス事業。

※3 2023年より従前ECに含んでいたランニングサービスを新チャネルとして開示。

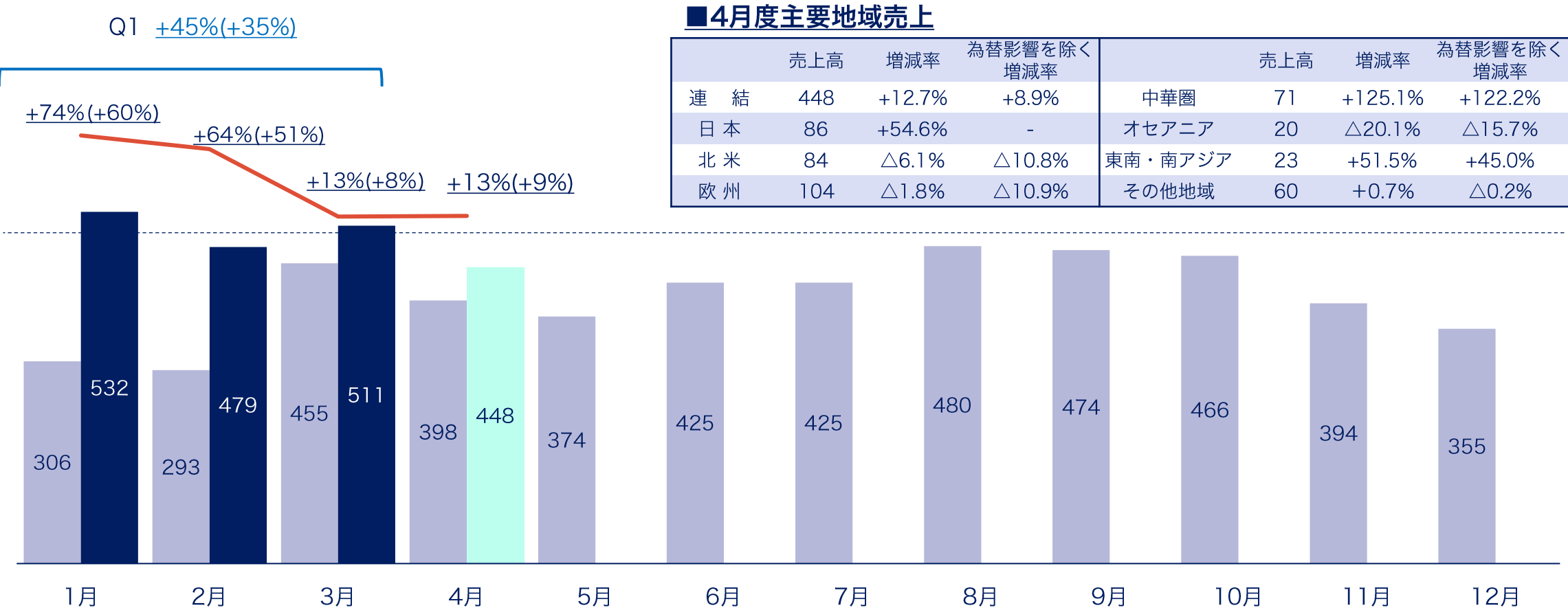


連結売上高（月別・四半期別）

■ FY23 ■ 売上速報 (単位：億円)
■ FY22 — 前年同月比%(為替影響を除く増減率)

- ✓ 各地域で好調に推移した事に加え、前年1月・2月は物流の混乱影響で売上が低かったこともあり前年同期比+45%、為替を除いても+35%の成長。
- ✓ 3月単月売上は511億円、生産影響が解消しつつあった前年同月比で+13%と伸長。
- ✓ 4月単月売上も引き続き日本や中華圏等が好調に推移し前年同期比+13%、為替を除いても+9%と3月単月を上回る。

24



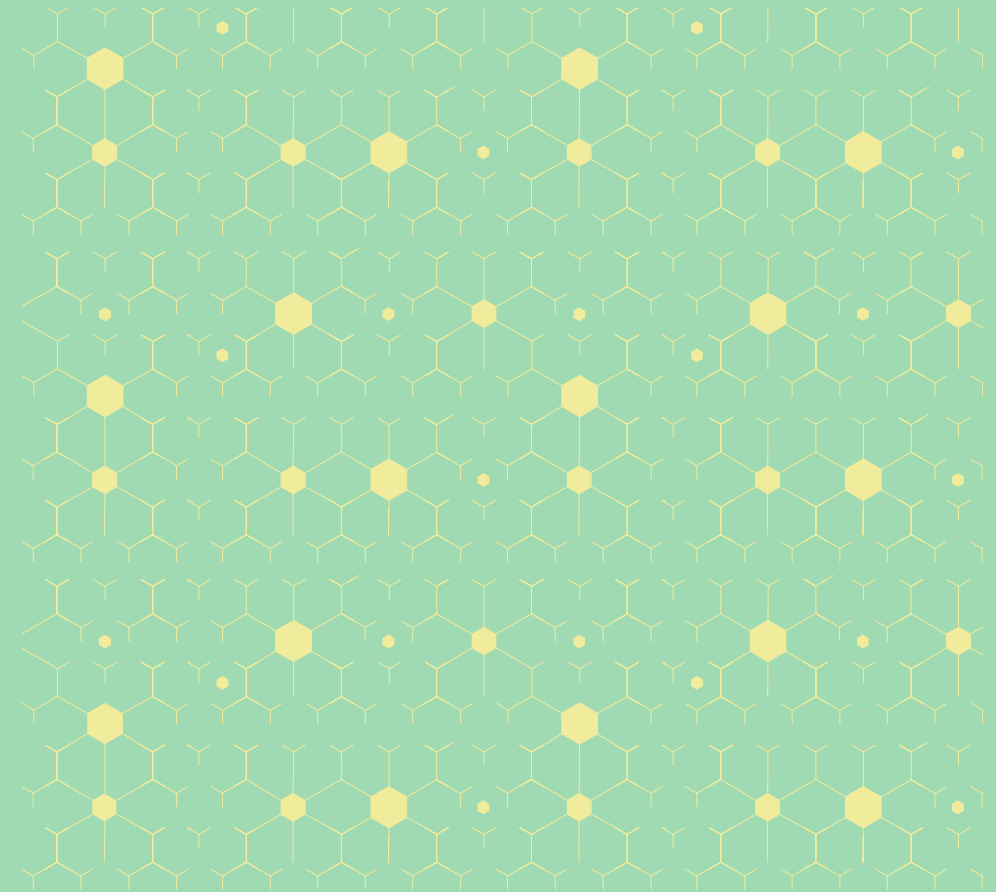
※ 2023年4月の売上高は速報データに基づいているため、確定データとは差異が生じることがあります。
また、新型コロナウイルス感染や生産遅延による影響も沈静化しておりますので、連結全体のみの開示とさせていただきます。



4. 2023年12月期 第1四半期 連結財政状態

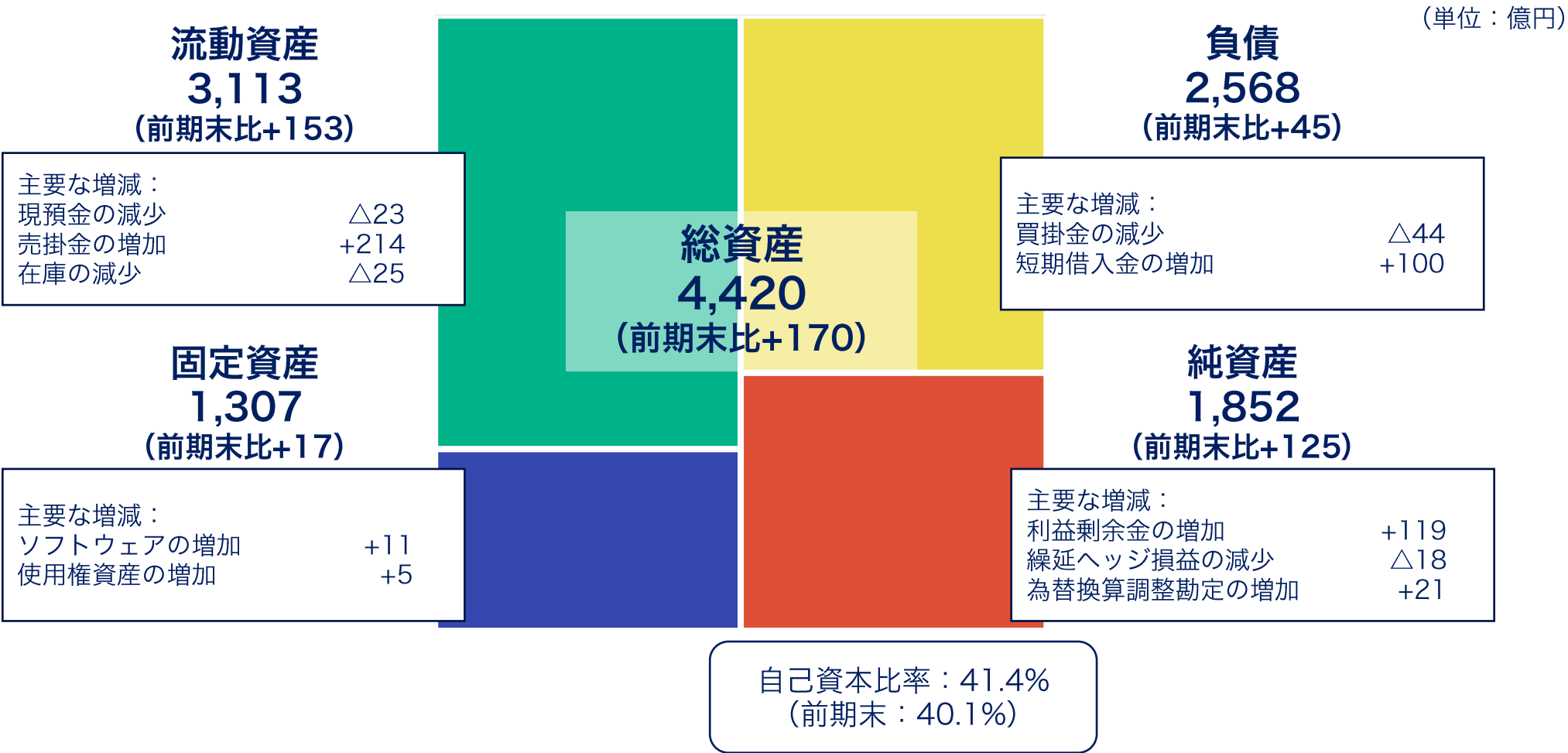
25

- ✓ 連結貸借対照表
- ✓ 連結棚卸資産残高
- ✓ ROAツリー分解



連結貸借対照表

- ✓ 売上が好調に推移し売掛金が増加。運転資本の増加に伴う、資金需要もあり短期借入金は増加。
- ✓ 自己資本比率は総資産の増加があるものの、前期末比で1.3ppt改善の41.4%。



連結棚卸資産残高

27

- ✓ 前年第1四半期末の棚卸資産残高は主に物流混乱の影響を受け、通常より低水準。当第1四半期末の棚卸資産残高は前期末比減少、棚卸資産回転日数（160日）は前年同期比△11日、前期末比△43日と大幅改善。
- ✓ 今後の需要を見極めつつ、引き続き柔軟な生産体制で対応。

■連結

(単位：億円)	FY22Q1	FY22Q4	FY23Q1	前年同期比	前期末比
連結	989	1,355	1,329	+340	△25
内、洋上在庫	301	234	191	△110	△43

■カテゴリー別※

(単位：億円)	FY22Q1	FY22Q4	FY23Q1	前年同期比	前期末比
P.RUN	318	619	596	+278	△23
CPS	46	118	112	+66	△6
SPS	63	96	92	+29	△4
APEQ	119	111	119	+0	+8
OT	136	123	136	+0	+13

■主要地域別

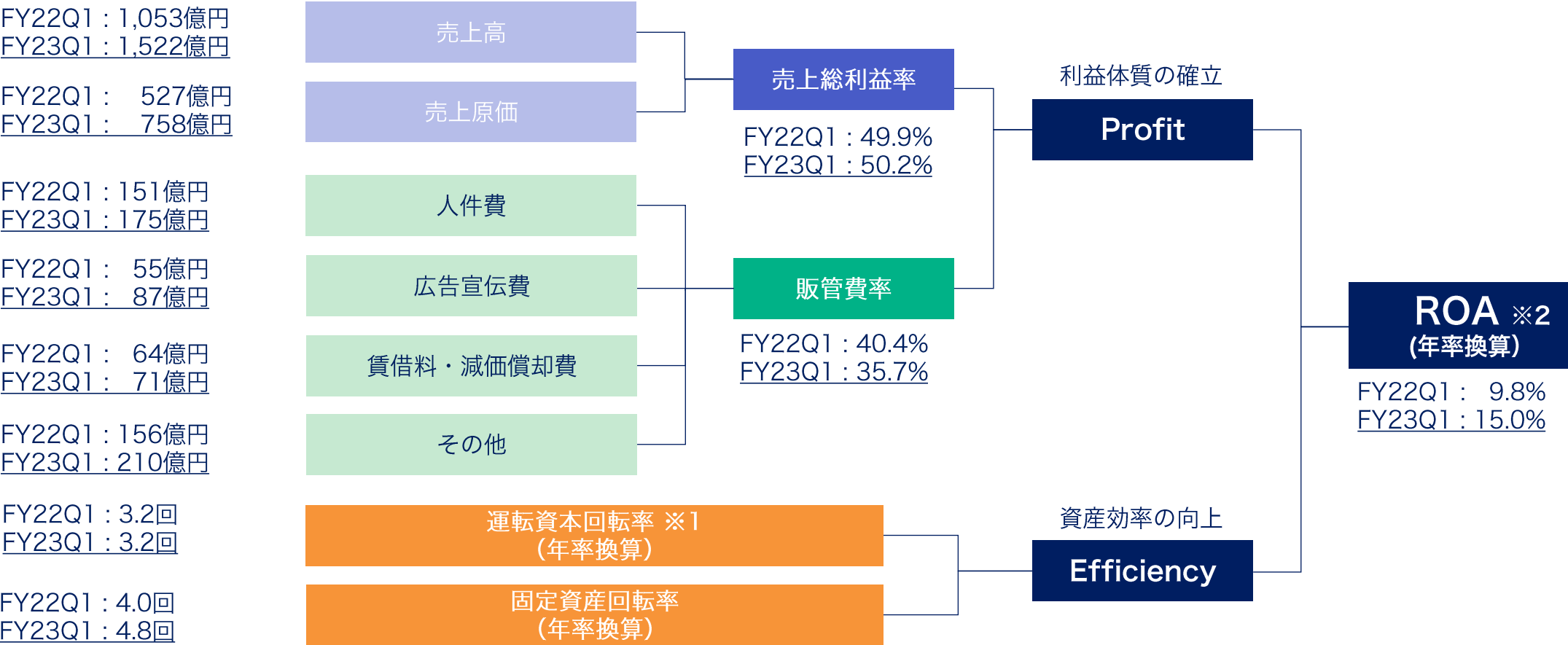
(単位：現地通貨)	FY22Q1	FY22Q4	FY23Q1	前年同期比	前期末比
アシックスジャパン（億円）	139	154	163	+24	+9
米国（M USD）	202	220	218	+16	△2
欧州（M EUR）	158	270	245	+87	△25
中国（M RMB）	722	857	793	+71	△64

※ カテゴリー別棚卸資産残高には洋上在庫を含めておりません。



ROAツリー分解

- ✓ 販管費については、コストオーナー制による継続的なコントロールを実施。販管費率は前年同期比低減。
- ✓ カテゴリーヘッドや生産、物流の責任者が参加する「キャッシュフローコミッティ」において、棚卸資産最適化に向けた取組みを協議し、その進捗管理を徹底。



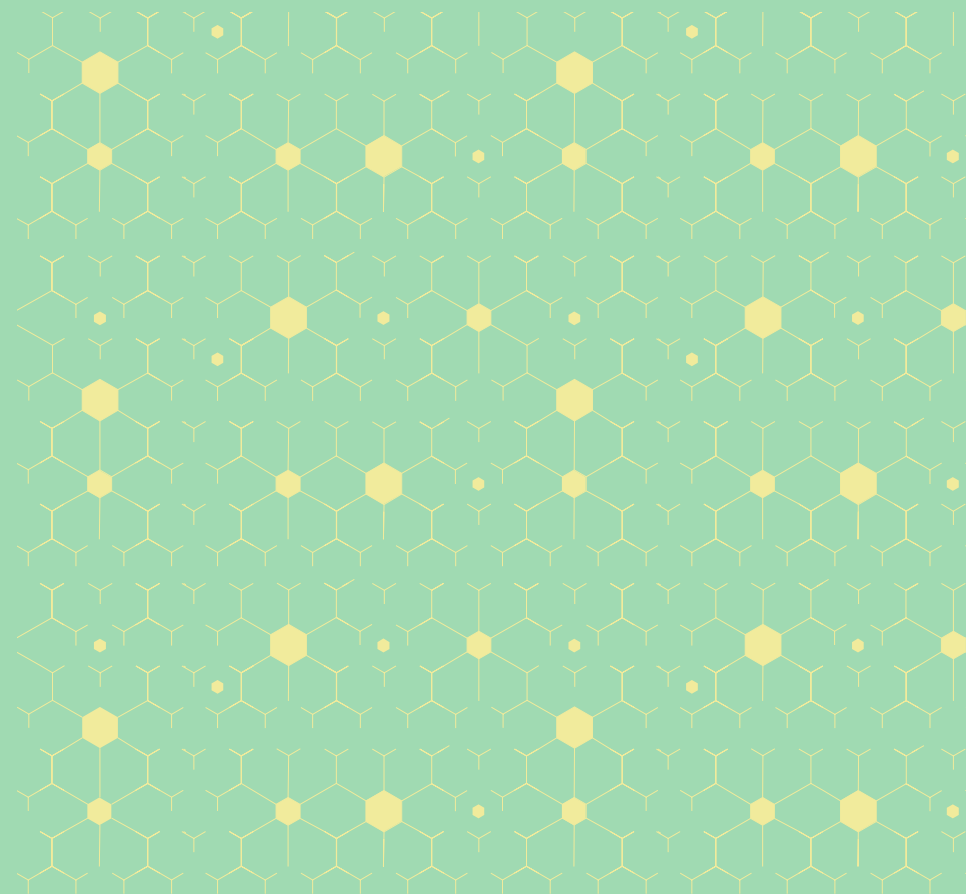
※1 社内目標として運転資本を設定しているため流動資産回転率ではなく運転資本回転率を記載しております。

※2 ROA = $\frac{2023\text{年}12\text{月期第1四半期純利益}}{(2022\text{年}12\text{月期期末総資産} + 2023\text{年}12\text{月期第1四半期末総資産}) \div 2} \times 4$



5. 2023年12月期 連結業績予想

29



2023年12月期 連結業績予想 ※2023年2月10日より変更なし

30

(単位：億円)	FY22 実績	FY23 予想	増減率	為替影響を除く 増減率
売上高	4,846	5,100	+5.2%	+8.0%
営業利益	340	370	+8.8%	+11.4%
営業利益率	7.0%	7.3%	+0.3ppt	-
経常利益	309	320	+3.5%	+5.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	198	200	+0.6%	+2.7%

配当金	中間	期末	通期
2022年12月期	16.0円	24.0円	40.0円
2023年12月期	22.0円	22.0円	44.0円

為替レート	USD	EUR	RMB
2022年12月期	130.54円	137.76円	19.38円
2023年12月期	125.00円	132.00円	19.00円

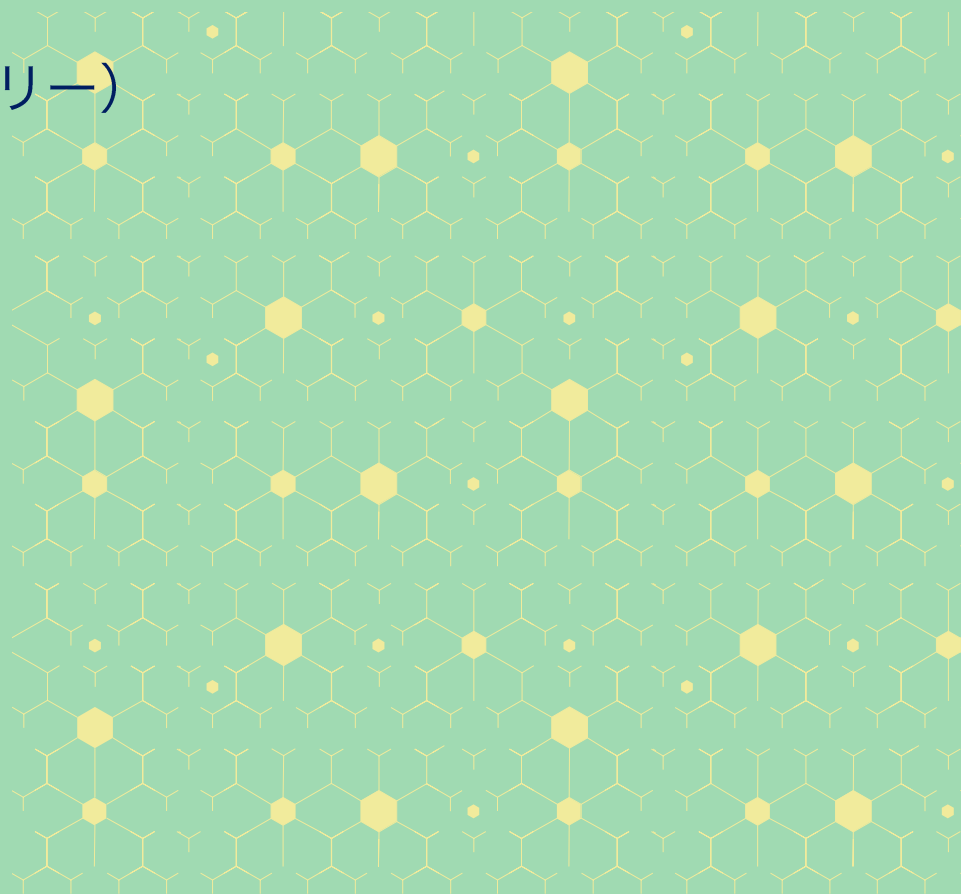
- ✓ 第1四半期累計期間は、前年同期の生産影響もあり増収増益となったが、収益構造の季節性を考慮し、また、欧米等における景気後退の可能性も見込み、通期の業績予想は2月10日開示時点から据置。
- ✓ 剰余金の配当については、年間44円（据置）とし、過去最高となる見通し。



6.その他

31

- ✓ サステナビリティにおける取組み
- ✓ IRカレンダー
- ✓ 主要契約アスリート等の一覧（アシックスファミリー）
- ✓ 地域別実績
- ✓ 連結業績予想：カテゴリー別・地域別
- ✓ 株価及び指標の推移



サステナビリティにおける取り組み

世界の人々の心身の健康とスポーツができる環境を守ることに貢献する

■基本方針

①サプライチェーン上の人権を尊重する

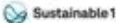
②2030年CO₂削減目標
(事業所及びサプライチェーン)

BUSINESS AMBITION FOR 1.5°C



 **OUR ONLY FUTURE**

63%削減 (2015年比)

People (人と社会への貢献)	Planet (環境への配慮)	開示・外部評価など
✓ 米アパレル・フットウェア協会 (AAFA)と公正労働協会 (FLA) の移民労働者の責任ある公正な雇用への賛同。 ✓ 運動と「認知機能」の相関性について研究を行い、運動することで頭が研ぎ澄まされるなどの改善が見込めることを発表。本研究のドキュメンタリームービーが世界24カ国で配信。 	✓ スポーツスタイルカテゴリーから豊田合成(株)のエアバッグ生地を再利用した「GEL-SONOMA 15-50」を発売。 ✓ LAマラソン2023にて前年大会のバナー等をリサイクルしたショッピングバッグを配布。東京マラソン2023にてサステナビリティの展示ブースを展開。 	✓ 環境戦略等の情報開示・評価をするNGO「CDP」のサプライヤー・エンゲージメント評価において、4年連続で上位8%の最高評価を獲得。 ✓ 業界上位15%の評価として、世界主要企業ESG評価の代表的な発行物である、S&P Globalの「サステナビリティ・イヤーブック2023」に選定。  ASICS Corporation Textiles, Apparel & Luxury Goods Sustainability Yearbook Member S&P Global ESG Score 2022 65 /100 As of February 7, 2023. Position and Score are industry specific and reflect exclusion screening criteria. Learn more at spglobal.com/esg/yearbook S&P Global 

主な予定			
2023年12月期 第1四半期決算	5月10日	15:00 15:30	決算発表 ライブ配信 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
インベストメントデイ	6月6日	15:00	テーマ：インド・アジアにおける成長戦略
2023年12月期 第2四半期決算	8月8日	15:00 15:30	決算発表 決算説明会 報道機関向け
	8月9日	15:00	決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
2023年12月期 第3四半期決算	11月10日	15:00 15:30	決算発表 ライブ配信 機関投資家、アナリスト、報道機関向け
インベストメントデイ	11月28日	15:00	「中期経営計画2026」公表（予定）
2023年12月期決算	2024年2月	未定	決算発表 決算説明会 報道機関向け 決算説明会 機関投資家、アナリスト、報道機関向け



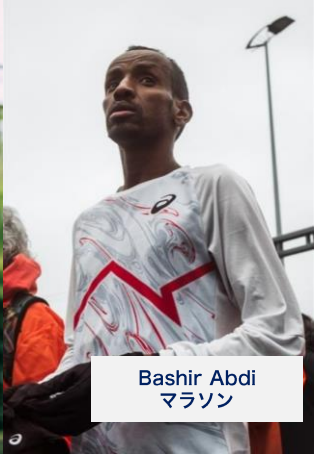
主要契約アスリート等の一覧（アシックスファミリー）



Tsegaye
Getachew
マラソン



Emma Bates
マラソン



Bashir Abdi
マラソン



山縣亮太
陸上競技（短距離）



桐生祥秀
陸上競技（短距離）



Joseph Fahnbulleh
陸上競技（短距離）



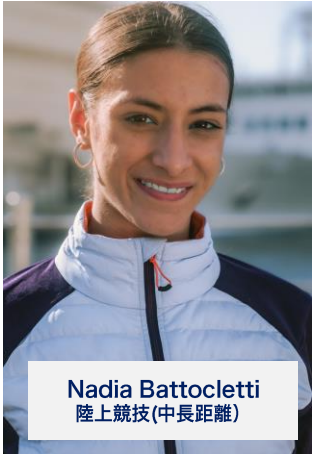
陸上日本代表を
応援しよう！
陸上競技
日本代表



Eilish McColgan
陸上競技（中長距離）



Mohamed Katir
陸上競技（中距離）



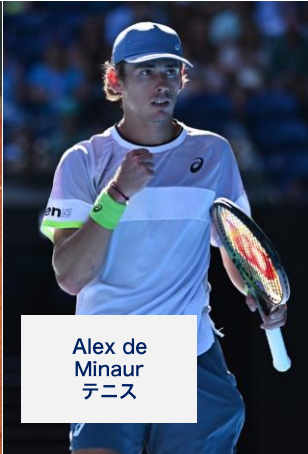
Nadia Battocletti
陸上競技（中長距離）



Novak
Djokovic
テニス



Belinda
Bencic
テニス



Alex de
Minaur
テニス



石川佳純
卓球



富安健洋
サッカー



中山雄太
サッカー



Wallabies
ラグビー



バレーボール
日本男子代表



株式会社今治、夢スポーツ
代表取締役会長
岡田 武史

2023年12月期 第1四半期地域別実績

(単位：億円)

日本	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	269	363	+94	+35.0%
為替影響除く増減		363	+94	+35.0%
営業利益	14	47	+33	+226.3%
営業利益率	5.4%	13.0%	-	+7.6ppt
アシックスジャパン (日本地域の内数)	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	142	231	+89	+61.9%
為替影響除く増減		231	+89	+61.9%
営業利益	2	30	+28	+1008.6%
営業利益率	1.9%	13.3%	-	+11.4ppt
北米	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	211	261	+50	+23.9%
為替影響除く増減		231	+20	+9.5%
営業利益	△7	△3	+4	-
営業利益率	△3.7%	△1.3%	-	+2.4ppt
欧州	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	308	444	+136	+43.9%
為替影響除く増減		407	+99	+32.1%
営業利益	40	65	+25	+61.7%
営業利益率	13.1%	14.7%	-	+1.6ppt

中華圏	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	135	191	+56	+41.2%
為替影響除く増減		180	+45	+33.7%
営業利益	36	45	+9	+24.5%
営業利益率	26.7%	23.5%	-	△3.2ppt
オセアニア	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	73	115	+42	+56.7%
為替影響除く増減		107	+34	+46.7%
営業利益	14	20	+6	+43.8%
営業利益率	19.7%	18.0%	-	△1.7ppt
東南・南アジア	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	36	69	+33	+91.1%
為替影響除く増減		63	+27	+75.4%
営業利益	6	17	+11	+176.1%
営業利益率	17.3%	25.0%	-	+7.7ppt
その他地域	FY22 (1-3月)	FY23 (1-3月)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	92	130	+38	+41.3%
為替影響除く増減		119	+27	+30.0%
営業利益	7	18	+11	+160.3%
営業利益率	7.7%	14.3%	-	+6.6ppt



2023年12月期 連結業績予想：カテゴリー別

(単位：億円)		FY22 実績	FY23 予想	増減率	為替影響を除く 増減率
P.RUN	売上高	2,582	2,730	+6%	+9%
	カテゴリー利益	491	530	+8%	+10%
CPS	売上高	541	610	+13%	+15%
	カテゴリー利益	94	95	+0%	+2%
SPS	売上高	434	480	+10%	+14%
	カテゴリー利益	64	75	+17%	+20%
APEQ	売上高	352	350	△1%	+1%
	カテゴリー利益	△16	10	-	-
OT	売上高	430	470	+9%	+11%
	カテゴリー利益	73	80	+8%	+10%



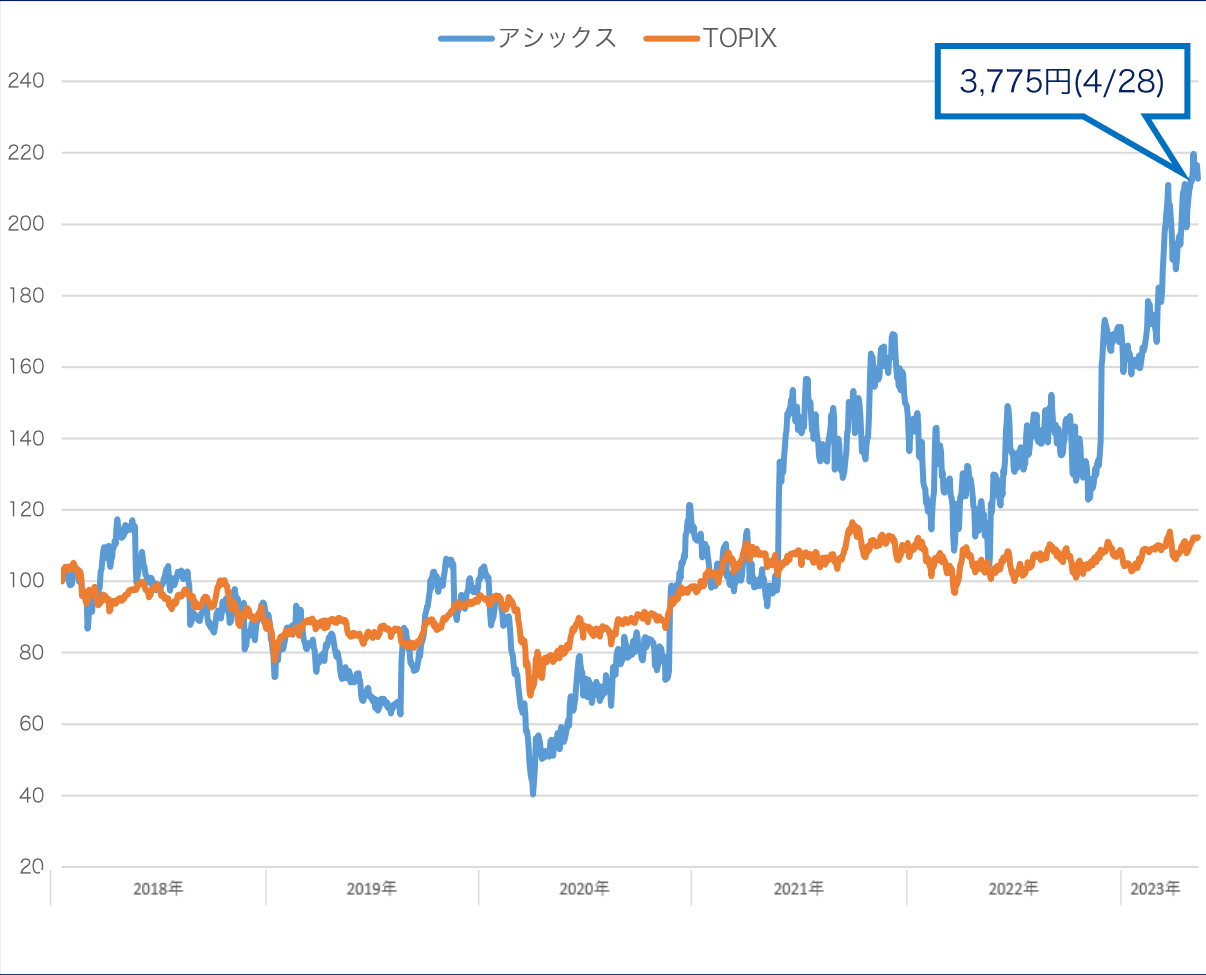
2023年12月期 連結業績予想：地域別

(単位：億円)		FY22 実績	FY23 予想	増減率	為替影響を除く 増減率
日本 地域 ※	売上高	1,234	1,190	△4%	-
	営業利益	60	55	△9%	-
うち、アシックスジャパン	売上高	672	745	+11%	-
	営業利益	14	30	+106%	-
※ 日本地域には、他の地域にはない主要5カテゴリー以外を販売する会社も含まれております。他の地域との比較可能性を考え、アシックスジャパンを日本地域の内訳として記載しております。 なお、日本地域には、アシックスジャパン、アシックス商事、ニシスポーツ等の会社を含みます。					
北米 地域	売上高	1,053	1,080	+3%	+7%
	営業利益	0	20	増益	増益
欧州 地域	売上高	1,300	1,330	+2%	+6%
	営業利益	112	120	+7%	+11%
中華圏 地域	売上高	624	680	+9%	+11%
	営業利益	100	110	+9%	+12%
オセアニア 地域	売上高	332	385	+16%	+16%
	営業利益	52	60	+15%	+16%
東南・南アジア 地域	売上高	184	230	+25%	+27%
	営業利益	29	35	+17%	+20%

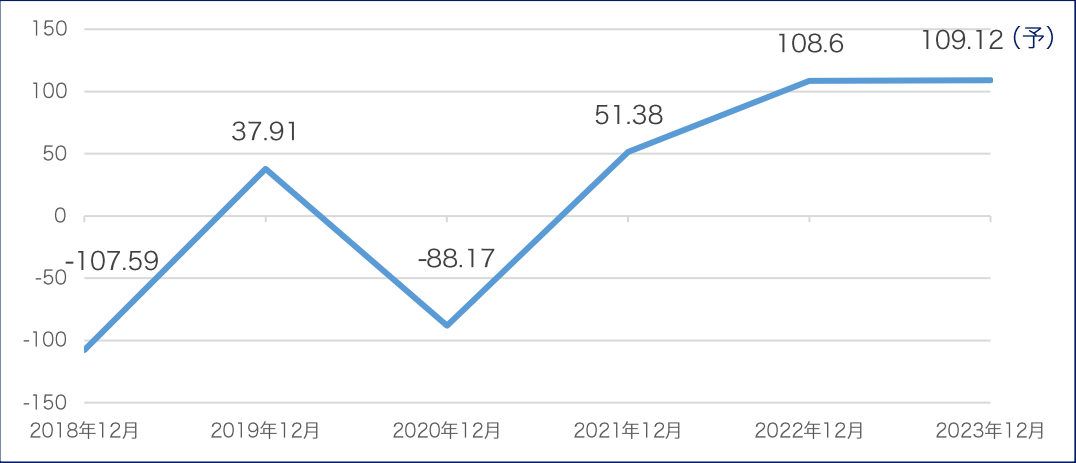


株価及び指標の推移

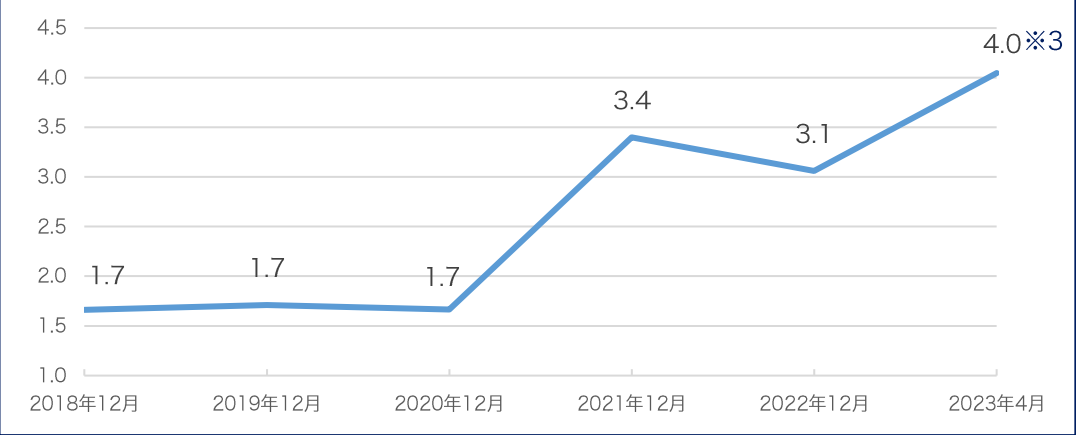
■株価推移 2017年末 - 2023年4月28日 ※1



■ EPS推移



■ PBR推移 ※2



出所：ブルームバーグ

※1 2017年12月29日を100として指数化
※2 PBR算出方法：株価純資産倍率＝株価／1株当たり純資産額
※3 2023年4月28日時点



